

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市字植苗51番地156 (電話) 0144-58-2245		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年5月23日	評価確定日	平成19年7月18日

【情報提供票より】 (19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	18 人
職員数	18 人	常勤	14 人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1~2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	52,500 円	
敷金	有 ( 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

### (4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢嶋内科医院、苫小牧東病院、道央佐藤病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人内の各施設が整然と建ち並ぶ広い施設内の一角にグループホームハーモニーがあり、緑深いロケーションに富んだ環境のもと、家庭的な雰囲気の中でやすらぎの生活が営まれている。災害への対応も法人内で合同避難訓練を行なうほか、救急救命の講座を開催し、スタッフ全員がマスターをするなど緊急時に備えており家族の信頼を得ている。また、利用者の有する能力をできるだけ引き出しての生活支援を行なうことをモットーとする、ホーム長を始めスタッフの気構えを感じた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念に対する職員への周知が、月1回の定例会議で話し合いが持たれた際に話し合われていますが徹底されていません。ケアプランの作成では、アセスメントが十分に反映されておらず、現在、センター方式の採用に着手しており、地域を取り込んだホームの運営について運営推進会議の設立も準備中です。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成については、各ユニットごとで職員全てが参加して作成するなど、評価に関わる関心の度合いは大きく前向きな姿勢が見られます。今後は自己評価及び外部評価で明らかにされた諸案件を、運営者、管理者、職員全てが活用されるよう期待されます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまで設立を見なかつた運営推進会議が、関係機関の指導もあり本年6月~7月の第1回会議開催を目指して最終の準備中である。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情などを運営に反映しなければならないことをホーム長や職員は認識していますが、家族に対して「お便り」で、また、投書箱などの効果的な利用により、積極的に意見などの聞き取り方法を講じて、ホーム運営やケアサービスの向上を図られるよう期待されます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の住民が少ない環境の中で、地域住民とも連携には難しい点もありますが、ホームでは近くの小中学校の運動会・学芸会に招かれて参加をしたり、地域の老人クラブの事業にも参加するなど、地域の一員として地域住民との交流に積極的な取組みがおこなわれています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人で統一した要綱が玄関などに表示されているものの、地域との関連性を謳ったホーム独自の理念作られていません。	○	これまでの家庭的な環境に加えて、地域住民との交流により、より安心した暮らしの支援をするための理念を職員自ら作り上げることを期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまでの運営理念は、職員採用時に説明をしていますが、それ以降は日々のミーティングなどにも話し合いはされておらず、取り組みには不十分です。	○	職員が日常のケアサービスを遂行するうえで、理念が求めている目標の追求は不可欠であることを認識し、毎日のミーティング、定例会議でお互いに周知、共有を図るよう望まれます。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	これまで、近くの小中学校での運動会、学芸会、また地域の老人クラブ事業への参加など行ない、地域との交流を深めています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価に関しては、具体的な活用方法など職員間での話し合いが持たれておらず、対応が十分とはいえません。	○	今回の自己評価については、職員の全てが参加しながら作成されており、前向きな姿勢が伺えます。外部評価においてもサービスの質の向上を図るための改善計画を作りながら具体的な検討が望まれます。

苫小牧市 グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置はされていません。現在、町内会や市の担当者と協議が行なわれており、本年の6月～7月には第1回の開催を行なう予定となっています。	○	現在、会議開催を準備中であり、大いに期待します。会議では地域の方々に多く参加してもらいながら、認知症への理解と、ホームが行なうサービスの評価に結びつけた質の向上を図る手段として活用が望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長は市内のグループホーム連絡会の活動の中で、市の担当者と意見交換をするなど交流を深める努力をしています。また、運営推進会議の設置に関しても市の担当者の指導を受けながら、地域に密着したサービスを目指す体制作りをしています。	○	今後は、市の担当窓口に毎月1回程度定期的に挨拶を行ない、情報を提供することが望まれます。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	不定期ですが広報誌が作られ、家族に配布しながらホーム生活の紹介をしていますが、発行の頻度が少なく、家族が知りたい情報に不足感があります。また、通院などの場合はその状況については、都度、電話により家族に報告がされています。	○	家族へは、毎月1度の定期的な「お便り」によりホームの様子、利用者の暮らしを知らせることが望まれます。また、利用者個人の暮らしを手書きで家族に知らせる気配りも期待されます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人組織で行なう施設全体のアンケート調査が行なわれているほか、家族の面会時に意見、要望及び苦情を聞くようにしていますが、ホームの運営に反映するまでには至っていません。	○	家族からの意見、要望及び苦情が表せることができるよう、新たに作られる「お便り」で周知したり、投書箱の設置も考慮が望まれます。家族会は設置の必要性を強く感じており、是非実現されるよう期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のスキルアップを目的として、1～2階のユニット間で年間各2名の異動を行なっています。また、法人内でも人事交流が行なわれていますが、利用者への影響に配慮して異動を控えるなどしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成を目的に、法人内での開催はありますが、職員はローテーションの都合などで参加できない場合が多い状況にあります。また、外部研修においても参加は捗々しくない状況です。	○	職員の研修参加によるサービスの質の向上を推し進めるため、休日出勤を含め計画的な研修会参加の機会を作るとともに、研修参加者の報告会を設けるなど全職員が共有できるよう望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内の各施設間では年1～2回の内部研修と交流会を開催しています。また、グループホーム連絡会で開催の交流会には毎年2名が参加し、ほかのグループホームとの交流が行なわれています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用に際しては、面談後、そのまま利用に移行する場合、及び一部に体験利用もありますが、本人の安心と納得を得るには問題が生じる場合が懸念されます。	○	馴染みを持ちながら円滑な利用を進めるため、相談から利用にいたるまでの支援を、体験利用も含め利用者本位のマニュアルを整備することが望まれます。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や針仕事、また、ソファでの職員と利用者の語らいなど、「おしゃべり」の時間を大切にしながら一緒に過ごしています。利用者によっては職員をいたわる場面もあるなど、お互いが協働しながら穏やかな暮らしができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を推し測るため、日々の関わりを深めようと努力していますが、職員のスキルの面やローテーション、また、業務に追われるなどで生活を支えるアセスメント不足で十分な把握に至っていません。	○	ホーム長を補佐するシフトリーダーの育成も含め、職員の業務に関して改善を協議しながら、利用者主体の生活を支える体制作りを行なうことが望まれます。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成では、前の外部評価でアセスメントが不十分な点を指摘されたことを受け、現在、センター方式の導入に着手しています。	○	利用者が地域にあって、その人らしく暮らし続けるための個別計画でなければならず、センター方式を導入しつつ、本人の意向、家族の希望を十分に踏まえて介護計画の作成に当たるよう望まれます。また、ケア会議の内容をもう少し細やかに記録されるよう望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しでは、6ヶ月をスパンとして行なわれています。前回の外部評価ではモニタリングの不足とアセスメントが十分に機能していない点が指摘され、現在、センター方式の導入に着手しています。	○	現在、6ヶ月をスパンとして見直し作業が行なわれていますが、安定し計画に反映される箇所がなくても3ヶ月ごとの見直し作業が望まれます。また、状況によっては臨機応変な見直しの実施と内容の細やかな記録が望まれます。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、利用者のための訪問理美容及び馴染みの店への送迎、また、通院の送迎など行なわれています。昨年度より多機能性を発展させるためショートステイの導入を申請しています。	○	従来の自主サービスに加えて、ショートステイの本格的な取り組みが行なわれ、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援が期待されますが、これらサービスへの対応に職員のスキルアップも合わせて期待されます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかり付けの医療機関では、ホームの利用者を良く知る看護師が主に対応して、気軽に相談に応じています。また、隣の市の会館には歯科が開業されており、相談、治療に当たっています。	○	かかり付けの医療機関では、24時間対応の医師の確保が必要であり、早期な対応が望まれます。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との相談では、特変事への話し合いも度々持たれています。今後の課題として環境の整備を終えた後に検討することにしていきます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーへの配慮に気配りが見られますが、家族の訪問に際してのホーム受付簿では、住所、氏名など一覧表形式で記載がされています。	○	家族の方々は、受付簿の記入には協力してくれていますが、ホームとして利用者及び家族のプライバシー保護に配慮して、カード方式の採用など検討と改善が期待されます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは、利用者の希望を取り入れて、散歩やサークル活動に参加できるよう支援がされていますが、利用者本人が望む過ごし方、ペースの尊重にまでは至っていません。	○	現状を良しとせず、常に利用者一人ひとりの生活のリズムがこれで良いかをテーマとして、ケア会議の議題として取り組みが望まれます。

苫小牧市 グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人グループ内の管理栄養士が作る献立で提供されていますが、利用者が好む一味を加えるなど工夫がされています。また、職員は利用者と一緒に食事の準備や一緒に食事を楽しむ雰囲気づくりをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望をできるだけ取り入れながら入浴の支援をしています。入浴の曜日と時間を設定して、突然の希望にも対応していますが、夜間の入浴は職員の都合でできていません。	○	ホーム長は、夜間入浴の導入も必要であると認識しており、職員のローテーションも含め検討、実現化が期待されます。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や針仕事、花の水遣りなど本人の好みに応じて役割分担が行なわれていますが、対応できない利用者への支援が濃密になると元気な利用者への支援に支障をきたす場合があります。	○	利用者の能力によって、役割や楽しみごとなどが多少変わることは止む得ませんが、利用者同士が助け合える場面作りなど、職員間での協議が期待されます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者には、散歩やドライブ、買物、外出など希望によって外出機会の確保と支援が行なわれていますが、重度の利用者のケアに追われる職員の対応によっては困難な事態も生じています。	○	より良い支援ができるよう職員の増員も考慮しながら、外出の機会を多く持てるよう支援が望まれます。また、ボランティアの受入れも考慮するなどして外出機会の確保が望まれます。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠をしますが、日中の間は開放されています。玄関の戸口にはベルが作動していますが、音は気になるものではありません。		

苫小牧市 グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ法人内の老人保健施設と合同で年間2回の避難訓練を行なうほか、消火訓練も行なわれております。職員も地域の消防団の一員として協力しております。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老人保健施設の管理栄養士の支援を受けた献立表に基づいてユニット毎に異なる食事が提供されています。利用者の希望なども管理栄養士に伝えてメニューに反映できるよう支援がされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に面したソファや広々とした居間や食堂など、ゆったりとした時間の流れを感じる居心地のよい共用の空間があります。	○	更に利用者に季節感を感じてもらえるような飾り付けをしていきたいと職員が意欲を燃やしており、今後が期待されます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、馴染みの生活用品が持ち込まれて、各部屋に個性が感じられます。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。